

超高齢化に市政が追いついていません！

～高齢者介護と子育て支援

昨年の四街道市の高齢化率（65歳以上の割合）は26%、すなわち市民の4人に1人が高齢者です。しかし10年後には高齢化率は30%を超え、3人に1人、約3万人が高齢者となり、そのうち約2万人は75歳以上の後期高齢者です。また高齢者の約20%は認知症を患いやすく、10年後の市内には約6千人の認知症患者を迎え入れる事になります。

しかし、当市ではこの超高齢社会を迎えるための施設が整っておらず、介護や見守りを必要とする高齢者が地域で孤立する事が予想されます。早急に高齢者家族と地域や行政とを結ぶネットワークを構築し、地域で高齢者や認知症家族を支える支援体制を整えねばなりません。

また子供の貧困など貧困の連鎖を食い止めるためにも、母子家庭の母親への就労支援や経済支援、さらには子供たちへの学習支援が求められます。

（データ）平成26年の四街道市の高齢化率…26.0%

（10年後の高齢化率…約32%）

母子家庭の平均年収…約181万円（平成23年、厚労省）

貧困率…54.6%（2012年）

<対策>

【在宅高齢者や認知症家族への支援を！】

- ①特別養護老人ホームの増設と地域包括ケアシステムの確立
- ②認知症家族への総合支援体制の確立

【母子家庭や子育て世帯への支援を！】

- ①母子家庭を最優先とする公共業務へのワークシェアリング（分業）
- ②病児保育の実施と時間外保育や一時預かり保育の充実

【生活困窮家庭や障害者家族への支援を！】

- ①子供の貧困や貧困の連鎖を防ぐための地域連携と支援体制
- ②地域での障害者就労支援事業の拡充

【その他の支援】

- ①児童扶養手当の増額と現物給付
- ②寺子屋活動などの学習支援